

# 平成 23 年環境測定分析統一精度管理ブロック会議議事録

- 関東・甲信・静支部 -

日時：平成 23 年 7 月 7 日（木） 13:30～16:30

会場：茨城県霞ヶ浦環境科学センター 会議室  
（茨城県土浦市沖宿町 1853）

## 1 開会

## 2 挨拶

茨城県霞ヶ浦環境科学センター センター長 前田 修

## 3 議 事

### (1) 環境測定分析統一精度管理調査について

環境省 水・大気環境局総務課環境管理技術室 室長補佐 高野 厚

### (2) 平成 22 年度環境測定分析統一精度管理調査結果について

（財）日本環境衛生センター 東日本支局環境科学部 主査 西尾高好

### (3) 環境測定分析における留意点及び精度管理について

（独）国立環境研究所 地域環境研究センター 水環境管理室長 稲葉一穂

（独）産業技術総合研究所 地質情報研究部門 地球科学研究グループ

主任研究員 岡井貴司

## 4 ディスカッション

（事）：事務局 （参）：参加者 （助）：助言者・有識者 （環）：環境省

### （1）土壌溶出試験について，バラツキ防止等について

（参）土壌溶出試験について，バラツキ防止等の各研究機関の取り組みについてお聞きしたい。また今後の環境測定分析統一精度管理の予定を聞きたい。

（環）H22～24 で実施予定である。

（事）各自治体の取り組みについては、7/22 を目処にメール等で回答を受けることとする。

### （2）土壌試料・溶出液の作成方法について

（参）土壌試料・溶出液の作成方法について，溶出液の作成に使用する 1mol/L 塩酸の自家調製と市販との差異並びに自家調製時の留意点についてお聞きしたい。

（助）自家調製は銅とカルシウムの分析で若干精度が悪かったが、鉛とふっ素で違ってないため、基本的には差がないと考えられる。多くの機関は自家調製であり、調製では基準を決めて、同じも

のを使うことが大事。また、定期的に滴定等により濃度を把握しておく必要がある。

(3) 土壌試料・鉛及び銅の前処理について

(参) 土壌試料・鉛及び銅の前処理について、銅を測定する際の前処理の有無で平均測定値に若干の違いがあるとのコメントがありましたが、その詳細並びに抽出などでの注意点をお聞きしたい。

(助) 前処理による有意な差があるわけではない。

前処理を行わないほうが高く出る傾向があるが、前処理は必要と考える。この場合、詰める操作などでの塩の析出などに注意が必要である。

(4) 土壌試料・ふっ素における吸光光度法の蒸留操作について

(参) 土壌試料・ふっ素における吸光光度法の蒸留操作について、分取量による測定値差の有無並びに蒸留前に濃縮操作の影響についてお聞きしたい。

(助) 検液の分取量(20~200ml)が多いと測定値が低くなる傾向があり、分取量が100mL以上で小さい値となる傾向がみられる。また、濃縮なしに比べて濃縮ありでは、分取量が多く、小さい値となっている。

濃縮ありの分取量は100mL以上が多く、200mL以上では特に小さい値となっている。

濃縮なしの分取量は大部分が40mL又は50mLとなっている(蒸留フラスコに分取できる量となっている)。

(5) ふっ素の測定における流出速度と測定値の関係について

(参) ふっ素の測定において、流出速度と測定値の関係についてお聞きしたい。

(助) 一般に留出速度が早いと回収率は悪くなる傾向があるので、適切な範囲内の速度に留意する。

(6) その他

(参) ジクロルボスの標準原液で、A社とE社で濃度差があるように思われるが。

(助) 次年度調査ではロッド、プロダクトナンバーなどの調査を実施し、原因を明らかにしたい。

(参) 四塩化炭素の調製時問題について、その後、わかった点をお聞きしたい。

(助) 原因は不明(試料ガス調製時の問題と考えられる程度であり、その後も原因等の詳細はわかりません)。

## 5 閉会